

防火のすゝめ

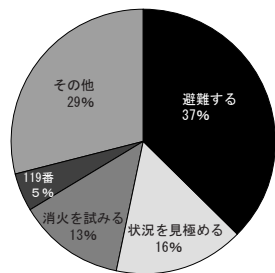
これからの季節、暖房器具を使うことも多くなるでしょう。さらに、空気が乾燥するので冬は火事に注意しなければいけません。火事は十分な対策をすれば発生を防ぐことができ、万が一起こってしまっても正しい対処によってその被害を抑えることができます。ここでは読者を対象に行ったアンケートをもとに、防火について考えてみましょう。(鴉)



火事になったらまずどうしますか？

10月に行ったアンケートでは一番最初にこの質問をしました。結果は下のグラフ①の通りです(回答数は108。以下同じ)。

突然こんな質問をされても面食らって答えに窮してしまうかもしれません。が、実際の火事ではじっくりと考える余裕などなく、火事を発見したときの最初の対応がその後の明暗を分けると言っても過言ではありません。いざという時のために正しい対処ができるようにしておきましょう。



「火事になったら
まずどうしますか？」
←グラフ①

■実際に取るべき行動

実際に火事に遭遇した場合、まずは落ち着いて状況を見極めることが大事です。身に危険が迫っている場合は直ちに避難すべきですが、そうでなければ慌てずに被害を軽減する努力をしましょう。

どのような場合でもできるだけ早く119番通報をします。また、近くの人に火事であることを知らせ、協力してもらったり避難を促したりすることも必要でしょう。

■自宅での火事

最初に初期消火(火が燃え広がる前に消火すること)が可能かどうかを判断し、可能な場合は消火に移ります。初期消火ができるのは天井に火が届くまでの間です。天井に移った炎は速やかに建物全体に燃え広がるので自力での消火は困難となります。

初期消火においてもっとも有効なのは

やはり消火器の使用でしょう(詳しくは右ページ)。他にも濡らした布団などで叩き消す方法もありますが、炎に近づくことになるので十分気をつける必要があります。

■建物内での火事

大学など、外出先の建物内にいるときに火事に遭った場合、避難経路の確保を第一に考えます。エレベーターは使わずに階段で避難しましょう。階段が使えない場合、バルコニーなどに設置されている避難器具を使います。普段よく使う建物の避難経路をあらかじめ確認しておくといいでしょう。

また、建物内の火災では炎はもちろん、煙にも気をつける必要があります。火事の煙には有毒ガスが含まれているので、姿勢を低くし、口に布(できれば濡らしておく)を当てるなどして煙を吸わないようにします。

～特殊な火災について～

家庭での火災の主要な原因として、電化製品からの出火やてんぷら油の発火などがあります。これらの初期消火に当たる場合の注意点を見ましょう。

■電化製品からの出火

基本的には消火器を使います。水をかける場合は必ず通電していないことを確

認して(電源プラグを抜いて)から行います。電源に触れられない場合はブレーカーを落とします。

こたつから出火した場合は、安易に布団をめくると火勢が強くなることが多いので注意しましょう。布団の上から水をかけ、火勢が十分弱くなったことを確認してから布団をめくって消火器などで完全に消火します。

■てんぷら油の発火

油がはねて怪我をするので水をかけてはいけません。基本的に油火災に対応した消火器(右ページ参照)を使うのですが、他にも濡れたシーツなどで鍋を覆ってしまうという方法があります。この時は鍋を倒さないように注意します。また、再出火のおそれがあるので油の温度が下がるまで覆いを取ってはいけません。

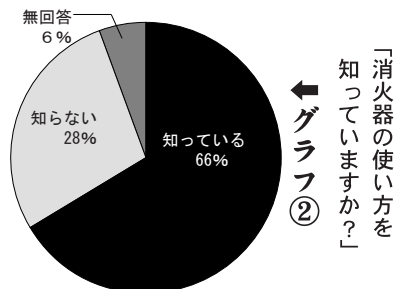
はみだし
すてーじ

私はこの定理に真に驚くべき証明を見つけたが、この余白はそれを書くには狭すぎる。
→もはや使い古された感がありますね、この台詞。

(理・1 はみだしすてーじの最終定理)
(で、どんな定理なんです？；編)

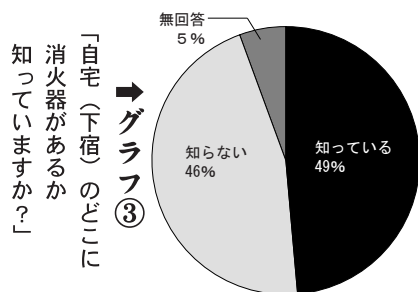
消火器の使い方を知っていますか？

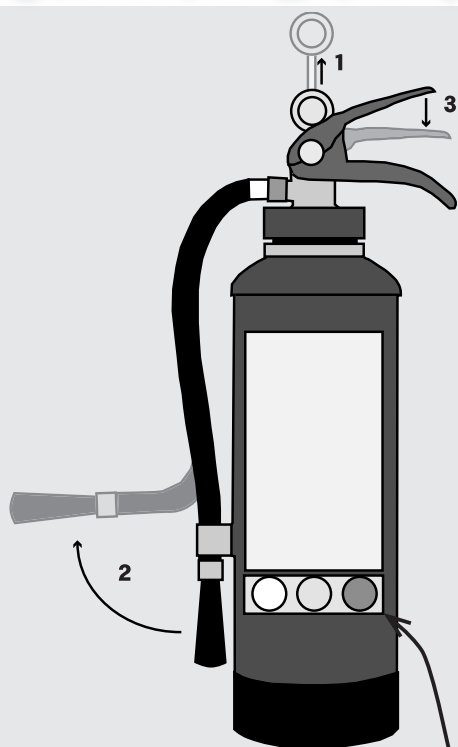
消火器を適切に使えば火事の被害を最小限に抑えることができます。消火器の使い方を知ることが大火災を防ぐための第一歩なのです。ここでは一般的な家庭用消火器について学びましょう。



上のグラフ②は消火器の使い方を知っている人の割合、下のグラフ③は、自宅の消火器の位置を知っている人の割合を示したものです。

両方の質問に対して知っていると答えた人は4割にも満たず、いざという時に消火器を使えない人がかなり多いことが明らかになりました。





▼消火器の使い方

1. 安全栓を引き抜く
2. ノズルを火元に向ける
3. レバーを強く握る

■使用時のポイント

消火器を使うときは、ノズルを火そのものではなく燃えているものに向け、火元からしっかり消火します。燃えている部分が広い場合、炎を掃くように軽く左右にノズルを動かすのが効果的です。

また、風があるときは必ず火より風上に立って使い、火と正面から向き合わないようにします。屋内で使用する時などは避難経路に背を向け、噴出煙で視界を奪われないようにします。

■消火器の対応する火災について

実は消火器には様々な種類があり、それぞれ火災の種類に対して向き不向きがあります。そのため、消火器には対応する火災に応じた表示がされています。

対応する火災の種類は普通火災、油火災、電気火災の三つに分けられ、それぞれ次のような表示で表されます。

A. 普通火災……白円	☐
B. 油火災……黄色円	☐
C. 電気火災……青円	☒

ただ、一般に普及している家庭用消火器はA B Cの三つすべてに対応していることがほとんどなので、あまり難しく考える必要はありません。

火事に対する備えをしていますか？

これまでは火事が起こってしまった時の対処法を中心に述べてきましたが、最も望ましいのは火事を未然に防ぐことです。そこで、最後に火事にならないための簡単な注意事項を右に挙げてみました。もちろん実際に注意すべきなのはこれらだけではありません。

これを参考に一度自分の家を見て回り、防火についてじっくり考えてみることをお勧めします。

■キッチンで

- ・コンロは壁から十分離す。スペースを確保できない場合は防熱版を設置する。
- ・劣化したガスホースは使わない。発火やガス漏れのおそれがある。
- ・コンロ使用中は目を離さない。離れる時は必ず火を消す。

■リビングで

- ・ストーブは壁から離して設置し、周囲に可燃物を置かない。
- ・タコ足配線はしない。
- ・消費電力の大きな電化製品は、使用中にプラグが加熱していないか時々確かめる。
- ・コンセントは挿したままにすると埃がたまり、発火するおそれがある（トラッキング現象）ので定期的に点検する。また、プラグの接触不良にも気をつける。

はみだし
すてーじ

記事の横や上にもはみだしたい。
⇒右側に5ミリはみだしてみました。わかります？

(薬・1 ココア)
(これが限界、ごめんなさい；編)